

# やめよ！徳山ダム

徳山ダム建設中止を求める会通信

No. 2 ('96. 5. 7)

事務局 ☎ 0584(78)4119  
大垣市本町2-27 FAX 0584(82)4119

## ☆5 / 3 100余名で徳山村を訪ねました

思いがけない多数の参加を得て、何とか無事に実行できて、事務局一同ほっとしています。

(詳しくは、代表・上田の文を裏面に掲載)

### 「徳山村を訪ねる会」収支報告

☆「バスツアー」	収入	¥190000	支出	バス3台	94000
	参加費：94名+小人2名			運転手日当(2)	30000
	¥5485	残り		ガソリン代	12000
				弁当	43695
				飲み物	4820
				合計	¥184515
1台のバスについてはF氏が全くの好意で運転して下さいました。					
別にバス1台(運転者を含む)を名水労から支援を受けました。					
☆交流会	収入	会費：25名分 ¥37500	支出	会場費	1600
				食物費・飲み物	32956
		¥2944	残り	合計	¥34556

☆ 暖かいカンパ ¥44500 → 合計 ¥52929 活動資金へ

(当初赤字と思われましたが皆様のご支援で黒字になりました。有り難うございます!)

## ☆4 / 26 岐阜県自然環境保全連合と連名で 中部地建に要望書(特にイヌワシの件)

事業者は、イヌワシなどの貴重な生物のきちんとした調査をしていません。工事の凍結と最低3年間の調査を要求する要望書を提出しました。しかし今のままでは「審議会専門部会から指摘されるのでなければ」などと逃げるのは見えています。さらに質問状を出して、事業者から回答を引き出し、世論を喚起して動かす方法を考えています。

## ☆4 / 26 第5回審議委員会を傍聴

水没地域の補償交渉は共有林を中心に5%ほどが未成約、付替道路など関連工事は17%しか契約ができていないことが明らかにされた。旧徳山村民の生活再建の状況について(文殊団地の沈下問題も含めて)質疑があった(事業者から回答を受けても審議委員もあまり納得できていない様子。我々にもよくわからない)。専門部会について、委員の人選確認、非公開で行い8・9月をめどに結論を出すようにすることを決めた。公聴会は当初「名古屋で1回」の予定であったらしいが、岐阜県会議長が「岐阜県で」と押して、2回開催となった。

☆ 審議会「公聴会」 6/22(土)1時～ 大垣市・総合福祉会館

6/29(土)1時～ 名古屋市・吹き上げホール

公述希望者は5/21までに1200字程度の要旨を審議委員会に提出することになっています。2回開催となり、多数の公述人が意見を述べるのが可能となったので、頑張らねばならなくなりました。内容・人間の調整のため、事務局は17・18日位まで要旨提出を待ちます。「公述しよう」と思われる方、事務局までご連絡下さい。

## ☆署名用紙提出を延期します

運動全体の流れをみて、提出の時期を再度設定しなおします。更に数多くの署名をよろしく願います(5/7現在 約2400)

## ダムに沈めたくない自然の残る徳山村を訪ねる会

5月3日、私たち「徳山ダム建設中止を求める会」の呼びかけに応じて、徳山村の現状をこの目で見、この足で歩いて考えようとする参加者百数名、マイクロバス4台に分乗、昼少し前にダムサイト予定地点に到着。公団の説明放送を聞く。「ダム湖の水面の広さは諏訪湖と同じ(13km<sup>2</sup>)」深さは「徳山ダム湖」の方が10倍以上も深いことになる。見上げるほどの山腹に表示されている紅白の標識が「満水時の水面の位置」と聞くと「ひえっ」と悲鳴を上げて立ち竦んでしまう人もあった。手前と先に2つ仮排水路が見える。これは工事中の揖斐川本流の迂回水路(1つは工事中の道路と洪水時の非常水路を兼ねる)である。「つちのこが捕まったのはこの辺りだ」と旧村人の感極まった声がする。

徳山村本郷に到着。徳山小学校の校庭から村の中心部の集落跡を見ながらミニ交流会。「徳山村を訪ねる会」と大きく墨書した幕を囲んで全員記念撮影。本郷・開田地区の散策を兼ねて昼食。徳山中学校の体育館へと向かう橋の辺りをイワツバメが飛び交っている。イワツバメが巣を架けている橋の下の川原は、オートキャンプの若者で賑わっている。

昼食後、山手～榑原方向へと向かう。車中で観察ポイントごとに同乗の旧徳山村民Nさんの説明を聞きながら進む。「あれがダムの中心部(コア)の材料の石を採掘する山だ」とNさんの節くれだった指が示す山肌の緑が目にしみる。徳山村には35ヶ所の遺跡がある。主に縄文時代のものだが、旧石器時代から縄文・弥生～平安・中世へと断続して遺跡が存在する。それだけ人が住みやすい地域であったと言えよう。中でも上原(おがら)遺跡は最大規模のものがあつた処。また、寺屋敷遺跡では約2万年前の旧石器時代のものも出土していて、縄文時代の竪穴式住居跡もあるという。磯谷(いそが)の奥の断崖(イツラ)にはクマタカが棲むという。クマタカのだいたいな狩り場に当たるこの辺りは湛水域となってしまう勘定になる。餌がなくてはクマタカの雛は育たない。心痛むことである。

扇谷から残雪に輝く能郷白山を眺める。谷筋を吹き下りてくる湿気を含んだ風が、ここに水源涵養林を育ててきたのだ。ダムサイト予定地点の彼方の空に虹縷の五色雲が棚引いていたのも湿気のせいだろう。先住民達は日本海側からやってきた。徳山は加賀白山から能郷白山へと尾根伝いに広まった白山信仰圏にあたる。本郷の白山神社がそれを物語る。

榑原は最後まで「離村」を拒んだ集落。額を寄せ合うように暮らしてきた60軒の跡地は土台が露出して、まさに廃墟になっている。山懐の林にはヤマネの巣があつた。

揖斐川本流の最上流部にある「塚」へと進みたいのだが、残念ながらバス4台分の駐車場所がない。遠望できる冠山の南山腹には絶滅寸前のイヌワシがいる(複数の人が目撃)。だが、建設省・公団は「調査区域外だ」「調査抜きで工事を進行させても、イヌワシに影響はない」と判断している。もっと執拗にイヌワシ保護の声を上げる必要を痛感する。

今日の締め括りの観察地点、国道417号線の付け替え道路現場へ向かう。その谷筋にいたカモシカをみんな目を皿のようにして観察。口を閉ざしていたNさんが、共有林の補償交渉が決着せずに宙ぶらりんになっている現状を話す。その「先のないトンネル」脇の杉の木のとっぺんに巣を発見する。天狗巣病という樹木の病気とも見えるが、やはり野鳥の巣。折から上空をトビが舞っているが巣の大きさから見て「クマタカ」の巣と判断できる。今営巣している気配はない。付け替え道路工事によってクマタカが巣を放棄したのではないかと疑念が過ぎる。その因果関係は俄かに即断できないが、開発行為が野生の動植物に大きな影響をもたらすことは否めない事実ではある。(上田武夫)